



久しぶりに出会った人と話がはずみます(上長田)

# 様変わりした敬老会

新たな取り組み



思いもなかった子どもたちからのプレゼントにっこり(鶴田)

9月19日は敬老の日。全国的に高齢化が進み、5人に一人は65歳以上という社会となっています。南部町では65歳以上の人口が3311人(8月末現在)となり、そのうち、敬老会対象者75歳以上は1719名で、全国平均を上回る高齢化率となっています。また、100歳以上の方は3名あり、最高齢者は102歳の男性の方でした。

今年から、敬老会を町主催から各集落で開催してもらうようお願いし、各集落では地域のお年寄りのために知恵を絞り、多くの集落が敬老の日に敬老会を行いました。

## 1人だけの敬老会

平成8年から造成されたフォレストタウンは現在31戸ありますが、敬老会の該当者は1名ということ。役員さんやご家族とも相談された結果、みんなでのお祝いの席は設けず記念品を渡すことでお祝いをするようになりました。

## 身近な敬老会

鶴田区では、会見地区が合同で10月30日に開催するなかで、近いほうがみんな出やすかろうということで単独で行うことになりました。その結果、昨年までは数名の参加者しかなかったのが、15名も参加され役員の方はたいへん喜んでおられました。

## にぎやかな敬老会

上長田地区では、地区内に緑水園という良い施設があるため、驛牛を除く地区でまとまって緑水園をフルに利用して開催されました。対象者の半数が出席し、式典、アトラクション、懇親会となりました。



ずっとお元気で(フォレストタウン)

このほかに子どもたちも参加し、集落をあげてお祝いをした地区もあり、さまざまな敬老会が開催されました。

各集落とも初めてのことで、役員のみなさんは手探り状態での敬老会となったようです。予算も限られていて難しかった反面、区あるいは数地区での一体感、達成感を感じられていました。出席された方の意見を伺ったところ、「会場まで近く、歩いていける。」「心がこもっていてうれしい。」「などの意見が多く、各集落での敬老会に好意的でした。一方で「他の地区の知り合いや同級生の顔をみたい。」「という意見もあり来年の参考にして取り組んでもらいたいと思います。」



代わって受け取るご家族

**100歳**  
おめでとう  
ございます

南部町能竹の遠藤静子さんが今年100歳を迎えられ、内閣総理大臣から長寿の祝状と記念品が10月12日に贈られました。坂本町長から「100歳はめったにないこと。よろしくお伝えください。」と入院中のご本人に代わりご家族の方にわたされました。

## 第1回 南部町 老人福祉週間

敬老の日を間に挟んだ9月15日の老人の日から21日までの一週間は、だれもが健康で安心して生きがいをもった生活を送ることのできる長寿社会を築いていくことを求め、老人週間と定められています。

南部町でもこの期間を老人福祉週間と位置づけ、老人クラブ連合会と協力し、健康で活力ある生活がおくれるように取り組みました。参加したお年寄りは、講演会やアトラクション、芸能大会など週間行事を楽しみました。

プラザ西伯で行われたオーブニングでは、米子市に在住の落語家、桂小文吾さんを招き、「笑滯塾」と題した講演会を行いました。健康には笑うことが一番と講演され、「今の若者は笑いが少ない、感情時代から感覚時代になってきた。5秒の笑いは深呼吸の2倍の酸素を体内に取り込む。中でも落語の笑いは健康に一番いい。」としっかりと落語をピーアールした後、本職の落語でみんなを笑わせ、生涯笑いの大切さを訴えられました。

また、翌日行われた芸能大会は、老人クラブの方々がパワー全開、元気に出演し会場を盛り上げました。



身振りも面白い桂小文吾師匠



笑いの大切さを学びました